

# レシート小説

淡中 園

レシートの上に埋もれて動けない。念のためといちいち貰ってとっておいた結果だ。もう部屋から出ることもできない。でもレシートの海は柔らかくて暖かくて、心地良い。そのまま目を瞑って眠ってしまった。

財布を整理していたらおかしなレシートを見つけた。「宇宙」とだけ書いてある。日付を見たら、掠れて読みにくいけど、約137億年前のようだ。当時と今の通貨の価値の違いをよく覚えていないけど、値段は妙に安い気がする。

死ぬ寸前、今までの人生が流れていく。走馬灯？ いや、端がうっすら赤い。走馬灯ではなく人生のレシートだ。しかも紙が切れる寸前の。回想の半ばで、全てが途切れて闇が訪れた。尻切れトンボの人生に相応しい。

かつての都の廃墟に悠久の時の  
間レシートを吐き続けるレジがあ  
る。その傍に世界が埋まらぬよう紙  
を燃やし続ける番人が座る。選ばれ  
た者がその前に立つと、レシートは  
途切れ、伝説のクーポン券が現れ  
るという。

生まれて初めて手ぶらでセルフレジに向かい、首後ろのバーコードを読み取る。貯金の大半を払い、ずっと夢見たコンビニの外。と思ったらレシートが出てきた。捨てるか持っていくか。どっちがクールか、しばし悩んだ。

# ◆ 領 収 書 ◆

1. 領収書代	¥10
---------	-----

---

小計 1点	¥10
-------	-----

消費税等(外税)	¥0
----------	----

(外税対象額	¥10)
--------	------

合計	<b>¥10</b>
----	------------

(内、消費税等	¥0)
---------	-----

# ◆ 領 収 書 ◆

1. 領収書代	¥100
---------	------

---

小計 1点	¥100
-------	------

消費税等(外税)	¥0
----------	----

(外税対象額	¥100)
--------	-------

合計	¥100
----	------

(内、消費税等	¥0)
---------	-----